

学位授与の方針(DP)に関する卒業生と就職先へのアンケート調査分析

本学では、今後の教育改善に取り組むことを目的として、毎年、「学位授与の方針に係わる学習成果」の検証を行っている。卒業生には自己評価への協力を依頼し、その就職先には、卒業生のディプロマ・ポリシーに関しての達成度評価をお願いしている。以下、2021年度に行った調査の分析結果を報告する。

1. 調査対象

1) 2020年度卒業生(2019年4月入学、2021年3月卒業)

- ・卒業生調査対象者数：240名(学科216名+専攻科24名)
- ・卒業生調査回答者数：87名(回答率36.3%：内Web返信64名)
- ・調査期間：2021年11月13日～2021年12月末日
(ただし、県外就職者については、2021年1月7日まで)
- ・その他：卒業生については、返信用封筒返送とWEB入力による回答を可能とした。

2) 就職先調査依頼施設・事業所

- ・就職先調査対象企業数：140施設・事業所
- ・調査回答企業数：104施設・事業所(回答率74.3%：卒業生142名分)
- ・調査期間：2021年11月13日～2021年12月末日

2. 調査結果

(1) 2020年度卒業生の自己評価

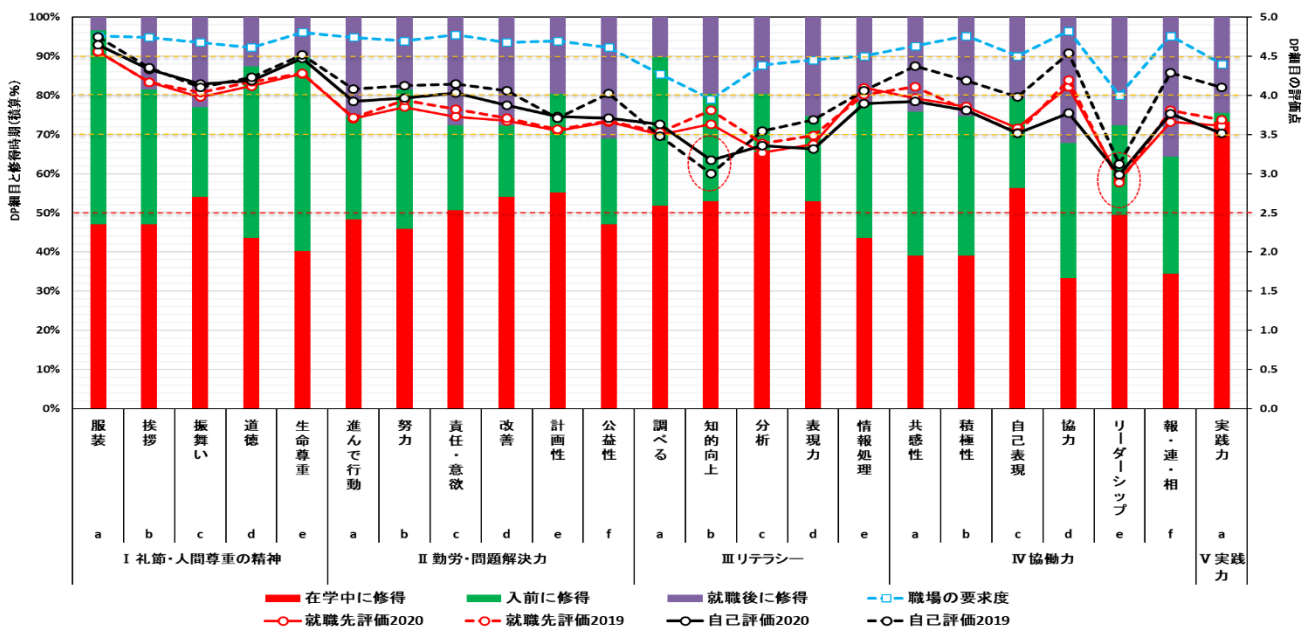


図1 2020年度卒業生のDP(I～V)に関する自己評価・職場評価ならびに修得時期

表1 2020年度卒業生の自己評価(回答数62×25件)

	I 礼節・人間尊重の精神					II 勤労・問題解決力						III リテラシー					IV 協働力						V 実践力
	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	f	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	f	a
	服装	挨拶	振舞い	道徳	生命尊重	進んで行動	努力	責任・意欲	改善	計画性	公益性	調べる	知的向上	分析	表現力	情報処理	共感性	積極性	自己表現	協力	リーダーシップ	報・連・相	実践力
自己評価2020	4.64	4.33	4.15	4.19	4.47	3.92	3.97	4.03	3.87	3.73	3.71	3.63	3.17	3.36	3.31	3.90	3.92	3.81	3.51	3.77	2.99	3.76	3.52
職場の要求度	4.76	4.74	4.68	4.61	4.81	4.74	4.69	4.77	4.68	4.69	4.61	4.27	3.95	4.39	4.45	4.50	4.63	4.76	4.50	4.82	4.00	4.76	4.40
就職先評価2020	4.56	4.17	3.98	4.12	4.27	3.70	3.85	3.73	3.68	3.55	3.66	3.50	3.63	3.27	3.37	4.10	3.96	3.86	3.58	4.11	2.94	3.66	3.61
入前に修得	43	30	20	38	43	23	31	19	16	22	19	33	24	13	19	30	32	31	20	30	20	26	2
在学中に修得	41	41	47	38	35	42	40	44	47	48	41	45	46	57	46	38	34	34	49	29	43	30	63
就職後に修得	3	16	20	11	9	22	16	24	24	17	27	9	17	17	22	19	21	22	18	28	24	31	21
自分評価のまとめ	4.36					3.87						3.47					3.63						3.52

(2) 就職先による2020年度卒業生評価

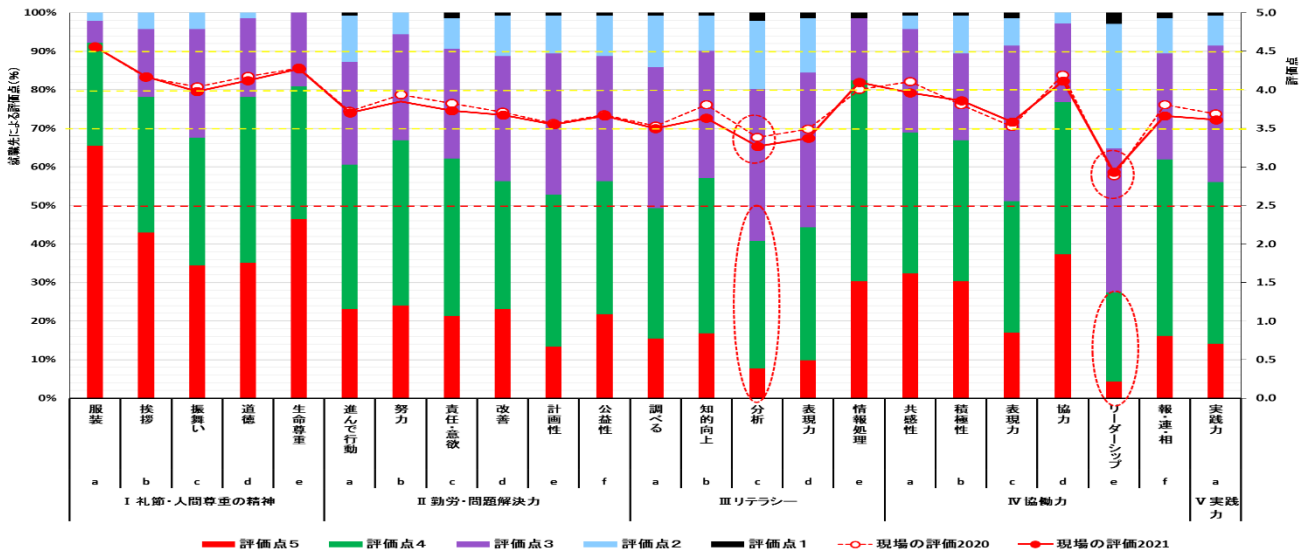


図2 就職先による2020年度卒業生のDP達成度評価

表2 就職先による2020年度卒業生のDP達成度評価

	I 礼節・人間尊重の精神					II 勤労・問題解決力						III リテラシー					IV 協働力						V 実践力	
	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	f	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	f	a	
現場の評価	4.6	4.2	4.0	4.1	4.3	3.7	3.9	3.7	3.7	3.5	3.7	3.5	3.6	3.3	3.4	4.1	4.0	3.9	3.6	3.6	4.1	2.9	3.7	3.6
5	93	61	49	50	66	33	34	30	33	19	31	22	24	11	14	43	46	43	24	53	6	23	20	
4	38	50	47	61	49	53	61	57	47	56	49	48	57	47	49	74	52	52	48	56	32	65	59	
3	8	25	40	29	27	38	39	40	46	52	46	52	47	56	57	23	38	32	57	29	52	39	50	
2	3	6	6	2	0	17	8	11	15	14	15	19	13	25	20	0	5	14	10	4	45	13	11	
1	0	0	0	0	0	1	0	2	1	1	1	1	1	3	2	2	1	1	2	0	4	2	1	
項目平均	4.22					3.70						3.57					3.69						3.61	

(3) 就職先による過去5年間の卒業生評価比較 (2015~2020年度)

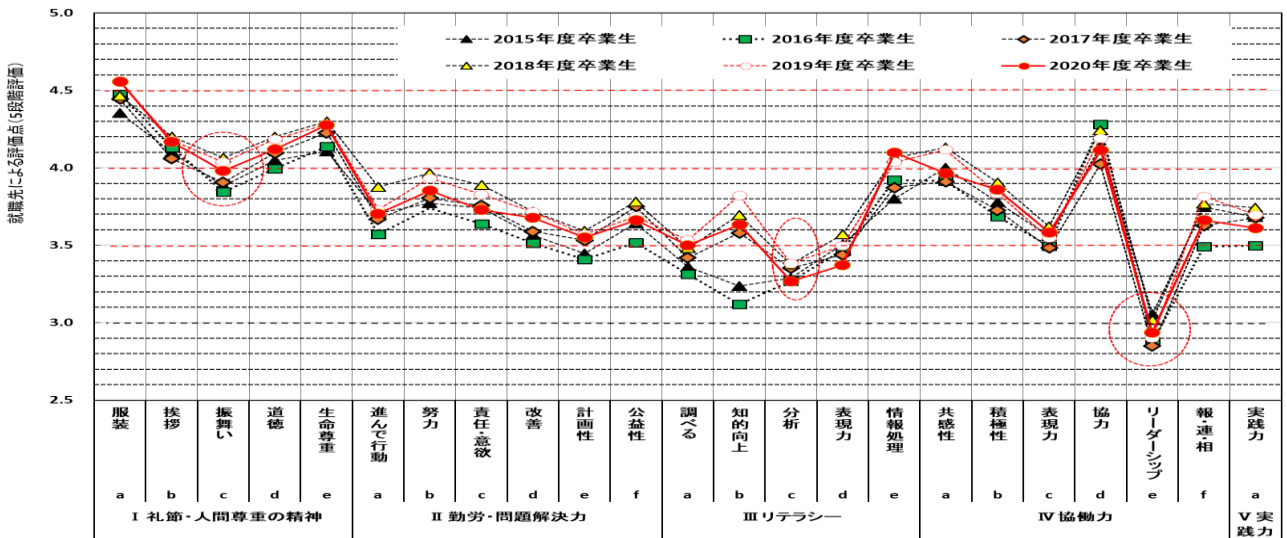


図3 就職先による卒業生のDP(I~V)達成度評価 (2015~2020年度卒業)

卒業年次	I 礼節・人間尊重の精神					II 勤労・問題解決力						III リテラシー					IV 協働力						V 実践力
	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	f	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	f	a
	服装	挨拶	振舞い	道徳	生命尊重	進んで行動	努力	責任・意欲	改善	計画性	公益性	調べる	知的向上	分析	表現力	情報処理	共感性	積極性	表現力	協力	リーダーシップ	報・連・相	実践力
2015年度卒業生	4.35	4.10	3.88	4.05	4.11	3.71	3.77	3.74	3.56	3.45	3.64	3.36	3.24	3.29	3.51	3.80	4.00	3.78	3.56	4.14	3.06	3.75	3.68
2016年度卒業生	4.47	4.13	3.84	3.99	4.14	3.57	3.74	3.64	3.51	3.41	3.52	3.31	3.12	3.27	3.47	3.92	3.92	3.69	3.49	4.28	2.88	3.49	3.50
2017年度卒業生	4.44	4.06	3.91	4.09	4.23	3.67	3.80	3.76	3.59	3.53	3.75	3.42	3.58	3.35	3.44	3.87	3.91	3.73	3.48	4.02	2.85	3.63	3.68
2018年度卒業生	4.46	4.20	4.06	4.20	4.30	3.88	3.96	3.89	3.72	3.59	3.78	3.48	3.69	3.38	3.57	4.07	4.13	3.91	3.62	4.24	3.02	3.77	3.74
2019年度卒業生	4.56	4.18	4.04	4.18	4.28	3.73	3.93	3.83	3.71	3.57	3.69	3.53	3.82	3.38	3.50	4.04	4.12	3.83	3.55	4.19	2.90	3.82	3.70
2020年度卒業生	4.56	4.17	3.98	4.12	4.27	3.70	3.85	3.73	3.68	3.55	3.66	3.50	3.63	3.27	3.37	4.10	3.96	3.86	3.58	4.11	2.94	3.66	3.61

2. 結果概要

「学位授与の方針に係わる学習成果」の検証を目的として、卒業生に依頼した「自己評価」調査とその就職先にお願ひした「卒業生のディプロマ・ポリシー（DPⅠ～Ⅴ）に関する達成度評価」を取り纏めた結果、以下の事が明らかになった。

1) 2020年度卒業生のDP(Ⅰ～Ⅴ)に関する自己評価・職場評価ならびに修得時期について

- ・ 上記の図1と表1に卒業生の自己評価・職場評価ならびに修得時期を示している。
- ・ DPⅠ： 礼節・人間尊重の精神が「何時の時期に身についたかのか？」の問いでは、35～47%（前年度33～60%）の卒業生が「短大在学中」としている。「職場要求度」は5段階要求度の4.6～4.8Pと高く、卒業生の「礼節・人間尊重」に対する強い潜在意識が窺われる。「就職先評価」は、卒業生の「自己評価」と若干差がみられるが、DPⅠに関しては平均4.2Pと他の項目に比べて高い評価が得られている。
- ・ DPⅡ： 勤労・問題解決力が「何時の時期に身についたかのか？」の設問では、40～48%（前年度40～50%）の卒業生が「短大在学中」としている。なお、「就職先」で身についたと感じている卒業生が16～27%と前年度（18～42%）より減少している。当然のことではあるが、「勤労・問題解決力」に関しては、「短大在学中」の体験をベースにしながら、今後さらに、「就職先」での経験を積み重ね、その精神が発展するものと推察される。DPⅡに関する今後の課題としては、「短大在学中」に「努力」目標を明確にして「進んで行動」のできる学生を養成するための継続的な取り組みが必要である。
- ・ DPⅢ： リテラシーに関して、「何時の時期に身についたかのか？」の問いでは、38～57%（前年度42～55%）の卒業生が「短大在学中」としている。しかしながら、「就職先」で身についたと感じている卒業生も9～22%（前年度15～38%）見られる。卒業生の「自己評価（3.2～3.9P）」と「就職先による評価（3.3～4.1P）」は差がみられ、「新聞・本を読み、自分の知的向上を図ること」の項目がここでは大きく逆転（自己評価<就職先評価）している。これは、卒業生が少し謙遜して評価した結果かも知れないが、学生の「新聞・本を読む」時間が非常に少なくなっているのは全国的な傾向である。このことから、「短大在学中」の授業で「参考書を読んで理解する。レポートを発表する。」など、授業内容・方法を継続して改善していくことが今後の課題と言える。
- ・ DPⅣ： 協働力に関しては、「何時の時期に身についたかのか？」の問いに対して、29～49%（前年度18～37%）の卒業生が「短大在学中」と増加し、「就職先」で身についたと感じている卒業生は18～31%（前年度20～55%）と減少している。特に、「就職先」で身についた細目として「協力して仕事をする事」、「状況に応じて、報告・連絡・相談を実践すること」の比率（28～31%）が前年度（50～55%）に比べて大きく減少し、教育改善効果が表れている。

卒業生に対する「就職先評価」は2.9P～3.9P（前年度2.9P～4.2P）を示し、「リーダーシップを発揮すること」の評価が2.9P（3.0P:だいたい心がけていた）を下回っている。卒業生の「自己評価」も3.0Pであることから、卒業生も「リーダーシップ」を発揮できていないことを自覚していることが窺える。就業経験8ヶ月未満の卒業生にベテラン先輩方を差し置いて「リーダーシップを発揮すること」は、難しいと予想できる。昨年、「新人の先生が、ベテラン先生の知らない〇〇遊びを披露してくれて驚きました」との就職先コメントも見られ、「短大在学中」の教育的課題がこの「New、先端、未知、未経験」の中に隠されているのかも知れない。

「リーダーシップを発揮」できる教育の取り組みについては、多くの大学が現在試行中である。本学の卒業生の50%は「在学中に身に付いた」と自覚しており、アクティブランニングなどを授業に取り入れた継続的な教育改善が必要かと思われる。

- ・DPⅤ：「実践力は何時の時期に身についたかのか？」の問いでは、63%（前年度45%）の卒業生が「短大在学中」としている。また、「就職先」で身についたと感じている卒業生は21%（前年度48%）と大きく減少した。実践力の設問内容は、「大学で学んだ専門知識や技能を活用すること」と明記してあるが、多くの学生が「短大在学中」の「実習」等で実践力が身についたと実感しているものと思われる。また、卒業生の実践力に関する「自己評価」と卒業生に対する「就職先評価」は3.5Pと3.6P（前年度4.2Pと3.7P）を示し、まだ「4P：できている」の評価に届いておらず、「大学で学んだ専門知識や技能を活用できる能力」を展開するための教育をさらに進める必要がある。

2) 就職先の2020年度卒業生評価（図2・表2）

就職先の評価については、「1) 2020年度卒業生のDP(I～V)に関する自己評価・職場評価」の「職場評価＝就職先評価」と重複している。そこで、「就職先評価」の部分は割愛して、各DP細目の5段階評価の分布比率について概要を述べる（各DP細目の5段階評価分布比率についても、平均処理すれば前述した「就職先評価」点と同じになる）。ここでは、DP細目において4点評価と5点評価の合計が50%以上を占める場合は、「問題なし」と判断した。

- ・DPⅠ：礼節・人間尊重の精神については、「場に応じた服装をすること。相手を尊重した挨拶・ことばづかいをすること。配慮ある立ち居振る舞いをすること。道徳的な行動ができること。自他の人権や命を尊重すること」の全ての細目において4点評価と5点評価の合計が68～92%（前年度75～95%）を占め、前年度よりやや減少したが「問題なし」と判断される。
- ・DPⅡ：勤労・問題解決力についても、「自分から進んで行動すること。成果を上げるためにコツコツ努力すること。責任を自覚し、改善・向上への意欲を持つこと。自己を振り返り、改善点を見つけようとする。」の全ての細目において4点評価と5点評価の合計が53～66%（前年度55～68%）を占め、「問題なし」と判断される。
- ・DPⅢ：リテラシーについては、細目「物事については筋道を立てて考え、分析・総合すること」と「表現力：自分の意見をわかりやすく他者に伝えること。」の細目において4点評価と5点評価の合計が40～45%を示しているが前年度（30%以下）に比較すると改善傾向がみられる。他の細目「分からないことを辞書などで調べる。新聞・本を読み、自分の知的向上を図ること。必要に応じてパソコンの利用をすること。」では合計点が約50～80%を占め、「問題なし」と判断される。今後の課題としては、「短大在学中」に「物事の筋道を立てて考え、分析・総合する」能力を向上させるための教育内容の改善がさらに必要と考えられる。
- ・DPⅣ：協働力については、細目「リーダーシップを発揮すること」4点評価と5点評価の合計が27%を示し、前年度（40%）に比較すると改善がみられていない。他の細目「相手の話を傾聴し、共感的に理解しようとする。積極的に他者と関わる。協力して仕事をする。状況に応じて、報告・連絡・相談を実践すること。」は合計点が約51～76%を占め、「問題なし」と判断される。1)でも述べたが「リーダーシップを発揮する」能力を向上させるための教育内容の改善が「短大在学中」に必要と考えられる。
- ・DPⅤ：実践力については、細目「大学で学んだ専門知識や技能を活用すること」の4点評価と5

点評価の合計が 56%（昨年度 58%）を示し、「問題なし」と判断される。

3) 過去 6 年間の卒業生に対する「就職先評価」比較（図 3・表 3）

本章では、これまで卒業生が過去 6 年間に遡って就職先から評価されてきた「DP 達成度」の推移を比較した。目的は、「DP 達成度」の進展状況の変化を確認する事である。

- ・ DP I : 卒業生の礼節・人間尊重の精神に関する 6 年前の「DP 達成度」は、細目「場に応じた服装をすること」の評価が 4.4P と高く、細目「配慮ある立ち居振る舞いをすること」が 3.9P と低い評価になっているのが特徴である。この傾向は現在も変わらない。全細目が 2015 年度から 2019 年度にかけて徐々に上昇し、現在ではすべてが約 4P 以上の高評価点になっている。特に、2018/2019 年度間の差異は小さいが、2015/2016/2017 年度と 2018/2019 年度間の差が明確にみられている。なお、2018/2019 年度卒業生では、それまで評価が低かった細目「配慮ある立ち居振る舞いをすること」が 4.1P まで大きく伸びたが、2020 年度は「振舞い」と「道徳」の細目が若干減少を見せている。今後とも「礼節」の教育に継続して取り組む必要がある。
- ・ DP II : 卒業生の勤労・問題解決力に関する「DP 達成度」については、6 年前から「成果を上げるためにコツコツ努力すること」の細目評価が高く、「目標を立て、計画的に物事を進めること」の評価が低くなるパターンを示していたが、DP I と同様に全細目の評価が 2015 年度から 2019 年度にかけて徐々に上昇し、2015/2016/2017 年度と 2018/2019 年度間の差が明確にみられていた。しかしながら、2020 年度は 2018/2019 年度に比べて全細目が若干減少を見せている。本件についても「勤労」教育を継続して推進する必要がある。
- ・ DP III : 卒業生のリテラシーに関する「DP 達成度」は、細目「必要に応じてパソコンの利用をすること。」については 4.0P を超えた。しかし、細目「表現力：自分の意見をわかりやすく他者に伝えること。」や「物事に関して筋道を立てて考え、分析・総合すること」、「新聞・本を読み、自分の知的向上を図ること。」の評価が 3.3~3.6P と昨年度に比べ低く、全体的には減少傾向を示した。今後の課題としては、ここ数年継続して評価の低い「物事に関して筋道を立てて考え、分析・総合すること」についての教育的改善策が必要である。
- ・ DP IV : 卒業生の協働力に関する「DP 達成度」は、2018/2019 年度が 2015/2016/2017 に比べて微小ではあるが評価点の増加がみられた。しかし、2020 年度は、2018/2019 年度に比べて、細目「相手の話を傾聴し、共感的に理解しようとする事。状況に応じて、報告・連絡・相談を実践すること。」においてやや減少傾向がみられた。細目「リーダーシップを発揮すること」の評価は、全年度に渡って 3.0P 前後と低いのが特徴である。今後の課題としては、複数回に渡り指摘されてきた細目「リーダーシップを発揮すること」への対処が重要課題と思われる。
- ・ DP V : 卒業生の実践力に関する「DP 達成度」は、2015/2016/2017/2018/2019 年度の順に 3.7P、3.5P、3.7P、3.7P、3.7P と評価点が向上してきたが、2020 年度の評価点は 3.6P と減少している。設問は「大学で学んだ専門知識や技能を活用すること。」であるので、「宮崎学園短期大学の卒業生について、良いと思われること。宮崎学園短期大学の卒業生について、今後の課題であると思われること。」に対する就職先のコメントについて真摯に向き合う必要があると思われる。